

「肥のあかり」のSサイズ以上の果実割合向上のための摘果時期

「肥のあかり」は6月中旬と7月上旬に粗摘果、8月上旬に仕上げ摘果を行うことで、収穫期には2S果が少なく、S・M・Lサイズの果実が多くなり、糖度10以上、着色歩合2分以上の果実生産が可能である。

農業研究センター果樹研究所常緑果樹研究室(担当者:川窪 裕二)

研究のねらい

極早生ウンシュウ「肥のあかり」は、9月下旬から出荷される品種であるが、開花から成熟期までの果実生育期間が短いために、2Sサイズ以下の小玉果ができやすい一方で、果実が大きいほど品質が低下する課題がある。

そこで、果実階級の向上を図りながら、出荷時の果実品質基準(着色程度2分以上、糖度10以上、クエン酸1.0g/100m l以下)に達するための、摘果方法について明らかにする。

研究の成果

1. 慣行の粗摘果7月上旬、仕上げ摘果8月上旬(以下B区)に比べ、粗摘果7月中旬、仕上げ摘果を8月中旬(以下C区)と摘果時期が遅れると、収穫時の2S以下の小玉果が多く、S・M・Lサイズの果実割合が減少する。B区にさらに早い時期の6月中旬粗摘果を加える(以下A区)と、収穫時の2S以下の小玉果が少なく、S・M・Lサイズの果実割合が増加する(図1、図2)。
2. 収穫時の果実品質は、B区、C区に比べ、A区は糖度がやや低く、クエン酸含量はやや高くなるが、糖度10以上、クエン酸含量1.0g/100m l以下の果実生産が可能である(表2)。
3. 果皮色は、B区、C区に比べ、A区は赤味が薄く着色歩合もやや低いが、9月下旬に着色歩合2分以上となる(表3)。

普及上の留意点

1. 本成果は、「豊福早生」に高接した「肥のあかり」で行ったときの結果である。
2. 摘果を早期に行った場合の品質低下と着色遅延を防止するため、6月下旬からのシートマルチと、熟期促進を目的としたエチクロゼートや収穫前のリン酸、メチオニン資材を使用する。

表1 粗摘果および仕上げ摘果の程度

処理区	6月17日	7月4日	7月14日	8月6日	8月12日
A	葉果比15枚	葉果比20枚		葉果比25枚	
B		葉果比20枚		葉果比25枚	
C			葉果比20枚		葉果比25枚

注) 粗摘果は葉果比15枚と20枚。仕上げ摘果は葉果比25枚。

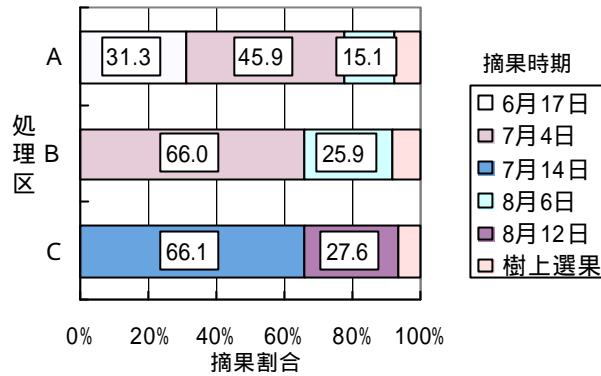


図1 処理区の摘果数割合

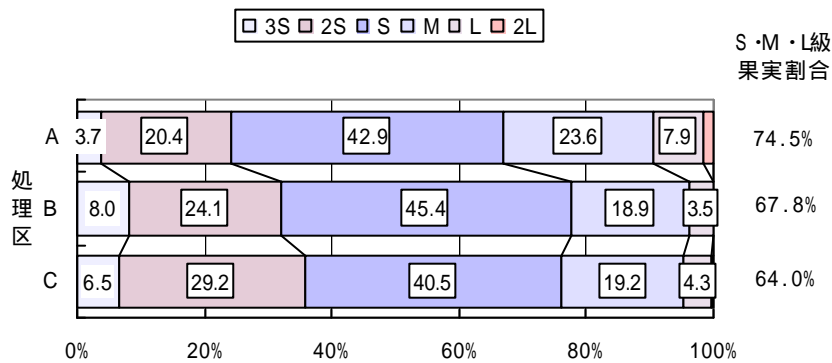


図2 摘果時期の違いが果実階級割合に及ぼす影響

注1)平成20年10月1日収穫、10月6日調査

注2)平成20年7月9日 シートマルチ開始

注3)平成20年7月24日 エチクロゼー1000倍散布

注4)平成20年9月8日 リン酸、メチオニン資材1000倍散布

表2 摘果時期の違いが果実品質に及ぼす影響

処理区	1果平均重 (g)	果肉歩合 (%)	果汁歩合 (%)	糖度 (Brix)	クエン酸含量 (g/100ml)	糖酸比
A	89.3	78.9	69.4	11.1	0.91	12.2
B	77.1	80.0	69.0	11.4	0.84	13.7
C	72.2	78.7	69.8	11.5	0.82	13.9

注) 平成20年9月19日 収穫・調査

表3 摘果時期の違いが果実の着色に及ぼす影響

処理区	a値	b値	a/b値	着色歩合 (分)
A	-8.60	59.64	-0.15	2.38
B	-3.86	64.36	-0.06	2.80
C	-3.50	64.00	-0.05	3.14

注) 平成20年9月19日 収穫・調査